

「タイで英語とタイ語を学びながら、プロサッカー選手を目指す！」(森田稚子)

GMS学部3年の森田稚子さんは、タイのバンコクに、半年間英語を学びに出掛けました。「え、タイで英語？」と思われる方もいるかもしれませんが、国際都市バンコクには様々な国々の人が暮らしており、英語のネイティブスピーカーの先生が在籍する語学学校が沢山あります。また一般的に日本より物価の安いタイでは(例:屋台のタイラーメンが1杯30バーツ = 約90円)、滞在費や学費も安く抑えることもでき、お値打ち価格で英語を学ぶことができます。さらにバンコクには日系のコンビニ、スーパー、百貨店、レストラン、本屋、カラオケチェーン、レンタルビデオショップ、等が数多く進出しており、また親日的な人も多く、日本人にとってはかなり快適に滞在できる都市といえます。そういうバンコクを留学先として選んだ森田さんは、さすがと言う他ありません。

上述したように英語を学ぶという目的だけでもタイに行く意味は十分あるのですが、森田さんはそれだけでは満足しませんでした。彼女はバンコクで暮らすうちに、「バンコクにいる外国人だけでなく、現地のタイ人とももっとコミュニケーションをはかりたい」と思い始め、英語と並行してタイ語の学校にも通いはじめました。そして一日3時間タイ語を勉強し、ついには簡単な日常会話ならタイ語でできるまでになっていました。

英語とタイ語、この2つだけでも森田さんの留学は「大成功」と言えます。しかし、森田さんにはさらなる目標がありました。それは、「タイで女子プロサッカー選手になる」という夢を叶えることでした。結果的には、スケジュール等様々な事情からその夢は実現しませんでした。しかしタイ人選手たちとの練習、そこで感じたカルチャーショック、サッカーを通じての出会い等、彼女は、単なる語学留学だけでは得られないような貴重な体験をしました。そして、見違えるほど大きく成長して日本に帰ってきました。

彼女の今回のタイにおける海外研修は、「英語の語学留学は必ずしも英語を国語とする国に行く必要はない」ということ、また、「GMSの「海外演習実践講座」ではサッカーであれタイ語であれ、既存の枠組み(英語、ボランティア、インターンシップ等)ではおさまらない様々な海外研修体験が単位として認定されうること」を示した点で、これから海外研修に行く予定の皆さんのご参考になればと思います。

以下は、森田さんにお聞きした内容です。

Q1. 海外研修のきっかけは何でしたか？また、なぜたくさんある候補地の中でタイに行くことを決めたのですか？

留学説明会で留学した先輩の話聞き、興味を持ちました。タイにしたのは、単純にタイが好きだからというのと、父がタイに住んでいたこと(注:森田さんのお父様は、お仕事の関係でタイに単身赴任中です)が大きいと思います。

Q2. 渡航前の準備として、何かしたことはありますか？

自分の英語力がどれくらいついているか知るために、TOEICを受けました。

Q3. 今回の研修に費やした費用は、いくらくらいですか？

生活費を別にして、英語の語学学校とタイ語の語学学校合わせて40万円くらいです。タイで英語を勉強するのは他に比べてとても安いのでお勧めです。

Q4. 現地では、どのようなところに宿泊していたのですか？ また、食事は口に合いましたか？

父の住む Condominium に、一緒に住んでいました。タイ料理はとてもおいしかったです。ただ、初めは屋台でご飯を食べるのには抵抗がありました。

Q5. 現地では、どのようなスケジュールで毎日を過ごしていたのですか？

平日は1日3時間前後英語の語学学校に通い、タイ語の語学学校に通っていた時はさらにあと3時間ぐらいタイ語を勉強していました。合計すると1日6時間ぐらい勉強していたことになります。

学校が終わった後は、学校の仲間とごはんを食べに行ったり、映画を見に行ったり、買い物に行ったりしていました。タイは映画の入場料が安いので、よく見ていました。休日は、友達とサッカーばかりしていました。



Q6. クラスメートには、どんな人達がいきましたか？

タイ人、以外にもパキスタン人、韓国人、中国人とアジアの人たちが多くいました。



Q7. 現地で心温まるエピソード等ありますか？

私がバスに乗った時、男の人がよく席を譲ってくれました。日本では男性が女性だからといってお年寄りや子供以外で若い人に席を譲るなんてことはめったにないのですごく驚きました。タイの男性はとても女性に優しく紳士な人が多かったです。

Q8. 現地で受けたカルチャーショックは、何かありますか？

タイでは、朝8時と夕方6時とに国歌が流れます。そして、タイ人は国歌が流れると静止して敬意を表するために手を合わせます。私はこの光景を、駅の改札で初めて見ました。みな改札も通らないで静止している姿には、本当に驚きました。これは、プロサッカーの試合中でも試合を一時中断して行われます。それだったら、その時間をまたがないで試合を組めば良いのに、と思うのですが・・・(笑)。

Q9. 今回の研修は、森田さんの大学生活や今後の人生においてどのように生きてくると思いますか？

タイに住んでタイ語を勉強したり、色々な人に会ったことで将来への考えも変わりました。タイに行くまでは「日本で普通の企業に就職出来たらいいな」と考えていました。

しかし、タイで働いている日本人女性などに会って話を聞くうちに、「私も海外で働いてみたい」という気持ちが生まれました。海外で働いている女性の多くは駐在ではな

く現地採用です。私が出った人たちもみな現地採用でした。現地採用ということとは自分の意思でタイを働く場として選り、住んでいる人たちです。みな自分の夢や人生プランを持っていて、すごく素敵だ女性ばかりでした。そんな彼女たちを見て、「私もあんな風になりたい！」そう強く思いました。きっと、海外に行かず日本で普通に大学に通っているだけだったら、あんなに多くの働く女性と知り合う機会は無かったと思います。

Q10. 最後に、これから海外研修を行いたいと思っている人へのアドバイスやメッセージをお願いします。

「海外に留学したい！」と出して簡単に出来るのは学生の間だけなので、留学してみたいと思ったら挑戦するべきです。海外でしか味わえない体験や経験を学生のうちに！！



おわり

(聞き手&文責 GMS学部講師 杉森建太郎)